

# 桑野塾

桑野塾 検索

<http://homepage2.nifty.com/deracine/russia/kuwanojuku.htm>

バフチンの対話、そして広場の思想を研究、実践、さらにアヴァンギャルドの青春を伝え続けてきた桑野隆に着きつけられた人たちが立ち上げた会です。教える、教えられるという関係ではなく、バフチンの「広場」のように、さまざまな人たちが出会い、思いや考えを交錯させ、刺激し合う場として不定期で開催している会です。ジャンルを横断するかたちで毎回さまざまなテーマで発表をしています。学会ではなく、一般のかた、テーマに関心のあるかたでしたら、どなたでも気楽にご参加いただけます。

## 第14回

2012年  
9月29日(土)  
15:00 ~ 18:00

早稲田大学 早稲田キャンパス 16号館 820号室

- ★ どなたでもご参加いただけます。会場に直接お越しください。参加無料。
- ☆ 終了後、近くの居酒屋で懇親会を開催します。(飲食費は別途)
- ※予約の都合上、懇親会参加をご希望の方はなるべく事前にご連絡いただくと助かります。
- ※報告者・タイトルは変更の可能性もあります。ご了承ください。



## 満洲の多民族文化における亡命演劇

報告者: 上田 洋子

### 演劇にとっての「満洲」とは——

東清鉄道建設にともなって発展したハルビンの地は、20世紀初頭から上海とともに極東ロシアの文化の中心となっていきました。極東ロシアが生んだスターには、たとえばウラジオストク出身のアメリカ俳優ユル・プリンナーがいます。彼の義理の母は元モスクワ芸術座・第二芸術座の若手スター、エカテリーナ・コルナコワ=プリネルで、ハルビンで演劇スタジオを開いていました。

満州国建国後、日本からは本国で活動ができなくなった左翼系の演劇人が、それまでの実践を新天地で活かそうと満州の地に渡り、現地の人々を指導して新しい演劇を作ろうとしました。

中国・ロシア・日本ほか、多くの民族文化が混在していた20世紀前半の満州における演劇の役割を、ロシア人と日本人の演劇活動を対象に考察します。



エカテリーナ・コルナコワ=プリネル



大同劇団『王属官』

## 長谷川瀧とバイコフ

報告者: 大島 幹雄

### 「見事なる敗北者」と亡命ロシア人の見た「満洲」

長年にわたって長谷川瀧の生涯を追ってきたその成果を『満洲浪漫——長谷川瀧の見た夢』(藤原書店 9月30日刊行)としてまとめた報告者による、長谷川瀧とバイコフの出会い、そして「偉大なる王」の翻訳が満州日日新聞で紹介されるまで、などふたりの見た満洲を見ていきます。



「満洲浪漫」のカバー

### 書籍販売のお知らせ

当日、会場で大島幹雄『満洲浪漫』の販売と、10月10日発売の雑誌「アートタイムズ」9号(特集:可能性としての満洲)の予約販売をいたします。

#### 特別販売 『満洲浪漫——長谷川瀧の見た夢』

大島幹雄著・藤原書店・2012年9月30日刊・税込2,940円

#### 予約販売 雑誌「アートタイムズ」9号 特集:可能性としての満洲

デラシネ通信社・2012年10月10日発行予定・税込800円

- [演劇] 満洲における中国・日本・ロシアの演劇活動 上田洋子・鈴木直子
- [映画] 満洲映画協会と「新京」の映画館 上田 学
- [写真] 満洲へのノスタルジア 瀧上白陽と満洲の写真家 瀧上白陽・エレーナ
- 『満洲国演義』船戸与一インタビュー
- [文学] 満洲大陸 夢先案内人 在満作家・長谷川瀧をめぐって 魏 舒林
- [文学] 大興安嶺探検隊と長谷川瀧 大島幹雄
- [小説] 出立前夜 芹澤 桂